

予算要求資料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 家畜伝染病防疫対応強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫指導係 電話番号：058-272-1111(内4159)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,813 千円 (前年度予算額： 3,717 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	3,717	145	0	0	0	0	0	0	3,572
要求額	3,813	145	0	0	0	0	0	0	3,668
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

国内では、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザなど、家畜伝染病予防法により、特に総合的に発生の予防及びまん延の防止のための措置を講ずる必要があるとされている家畜伝染病が継続的に発生しており、平成30年9月には、岐阜県において国内26年ぶりとなる豚熱が発生。

これまでアジア地域では発生のなかったアフリカ豚熱も中国や韓国にて続発し、国内への侵入が懸念されている。

これらの家畜伝染病については、国が特定家畜伝染病防疫指針を作成・公表しており、家畜衛生関係者及び生産者はこの指針に基づき一体となって家畜伝染病の発生予防及びまん延防止に取り組む必要がある。

(2) 事業内容

・家畜伝染病の現状を理解し、万一の発生時へ備え、関係者の危機管理意識の更なる向上を図るため、家畜伝染病(口蹄疫、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等)に関する防疫演習を開催する。

・特に農場への侵入が懸念される豚熱及び高病原性鳥インフルエンザについて、対象農場の防疫意識の向上を図るため、農場の一斉消毒等を実施する。

①一斉消毒等の実施

養豚場及び養鶏場に消石灰を配付し石灰消毒を実施するとともに、確実な石灰散布や、改正飼養衛生管理基準の遵守指導を併せて指導

必要石灰数：約5,100袋(20kg/袋)

②防疫演習の開催

家畜伝染病の発生を想定した実働演習のほか、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、アフリカ豚熱の発生予防をテーマとする講演等を開催

対象：県内農家、県内獣医師、家畜防疫員等

(3) 県負担・補助率の考え方

① 県：10/10、② 県：1/2、国：1/2（消費・安全対策交付金）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	61	防疫演習旅費
需要費	3,752	防疫演習等消耗品、消石灰
合計	3,813	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（R1～5）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - (2) 安らかに暮らせる地域
 - ④ 災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・「ぎふ農業・農村基本計画」（R3～7）
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ④ 家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

家畜伝染病（口蹄疫、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等）に関する防疫演習を毎年開催し、家畜伝染病の現状を理解し、万一の発生時へ備え、関係者の危機管理意識の更なる向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①防疫演習の参加者数		160	100	100		160%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	防疫演習開催し、県内で発生のある豚熱、更に侵入リスクの高まっているアフリカ豚熱に対し、関係者の危機管理意識の向上を図った。 参加者数：104人
	指標① 目標：100 実績：104 達成率：104%
令和 3 年度	防疫演習開催し、全国的に発生が続く豚熱及び高病原性鳥インフルエンザに対し、関係者の危機管理意識の向上を図った。 参加者数：160人
	指標① 目標：100 実績：160 達成率：160%
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>国の特定家畜伝染病防疫指針に基づき、家畜衛生関係者及び生産者が一体となって家畜伝染病の発生予防及びまん延防止に取り組む必要があることから、本事業を実施する必要性は高い。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	<p>豚熱の防疫作業で培った家畜伝染病の発生時の防疫対応のスキル・ノウハウ等について、防疫演習等の実施により共有・継承ができています。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	<p>課題や目的を明確にして、演習内容を設定・実施することで、事業の効率化を図った。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 海外での家畜伝染病の発生状況、国内での野生いのししの豚熱発生状況から、農場での発生リスクはなくなり、継続的な事業実施が必要である。</p>

(次年度の方角性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 家畜伝染病の発生予防・まん延防止のためには、継続した取り組みが必要であり、引き続き関係者の危機管理意識の向上に取り組む。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	